

イマージョン方式によるバイリンガル教育について

— グローバル教育と実施状況報告 (2) —

ABCD 学院 学院長 千葉紘一

日本で最初の帰国子女のための英語補習校であるABCD学院での教育について報告します。前回は引き続き、英語によるイマージョン方式のバイリンガル教育の実例を紹介いたします。

6. 学院のグローバル教育とは

前記を踏まえ、本プログラムの基本理念を下記としています。方法は、試行錯誤で色々変わりましたが、既に4年が経っています。

- 1つ目は、第2項で述べたイマージョン教育を9才から15才までの帰国子女を対象に行なってきました。
- 2つ目のクリティカルシンキングについては、帰国子女プログラムとして、教科を教えながら、クリティカルシンキングを多く取り上げていくにはどの様にすべきか考えながら実施して行きました。また、イマージョン教育だからこそ、これが可能と言えます。これを各学年に応じてどの様に実施して行くか、内容をどうするかポイントとなります。

7. 実施例

本プログラムの成果として実例2つを示します。1つは、一生徒を取り上げ、如何に進歩して行ったかを、プレゼンを中心に時系列的に概要を紹介いたします。2つ目は、最近の中学上級クラスがどの様に行なわれたかを紹介いたします。

7.1 一生徒の特性と進歩の状況 (表1参照)

- (1) サイエンスが好きで、このため、中間プレゼンではいずれも、サイエンスを取り上げていました。ただし、サイエンスと言っても、バイオ、環境問題、機械(水力発電、蒸気機関、ジェットエンジン、ロケット、リニアモーター)電子技術ではGPS等、実に多彩で、生徒の興味の広がりを示します。
- (2) 初めは、事実関係の発表が中心でしたが、後半は、“なぜ?”を考えた発表となっていました。質問にも答えられる準備等おこなっていました。発表態度も、徐々に、堂々として来たり、聞いていて安心できるようになりました。自信に満ちてきました。

7.2 中学上級クラス全体の実施状況

クラス全体がどの様に実施されたかを紹介いたします。

- (1) このクラスの目標：
 - 様々な学問領域の理解を深め、考えを効果的に表現する。
 - セルフスタディに必要なスキルを身に付ける。
 - クリティカルシンキングを授業に取り入れる。
- (2) 内容紹介：

今季は、世界史をメインテーマとして授業を進めてきました。中間段階でのプレゼンテーションは生徒の興味あるテーマを、最終回は講師の指示により“アメリカ通史”に関連するテーマを個々に与え、実施しました。この最終回のテーマ選びは、主に、各自のプレゼンテーション後、共通テーマについてクラス全員で、ディスカッションを行うためです。

 - 1) 中身のある授業について

この季は、前半は時事問題について、後半は世界史、特に現代史を中心に学習しました。ディスカッション内容は主に、

下記の様なものでした。

- ・ 米世論、米国のイメージ、民主主義とイスラム
- ・ スマトラ沖地震とその後の国際援助
- ・ ベトナム戦争(イラク戦争との比較)
- 2) 自己表現力を鍛える。:トピックスについてディスカッションし、生徒自身の意見を言わせる。
- 3) 新聞記事や“Howard Zinn”の“A people's History of the United States”を使用。
- 4) プレゼンテーション・個人テーマ:
The Vietnam and Iraqi wars Compared.

8. まとめ

これまでご紹介した当学院のグローバル教育を評価しまとめたいと思います。製造業であれば、出荷する製品が評価となりますが、学院の場合は生徒がどの様に成長したかが評価だと考えます。そして、目標に対しての達成度が評価となります。

- (1) 自己学習能力：

初めから、ある程度、講師が指示すれば、インターネットを使って、調査し、まとめることが出来ていました。ただし、内容が次第に高度となってきています。
- (2) プレゼンテーション能力：

初めは、消極的で、アイコンタクトも十分でなく、不慣れのため、自信がなさそうに見えました。1年後、2年後、時が経つにつれ、アイコンタクトも取り、自信に満ちてきました。大きな進歩と言えます。
- (3) ディスカッション能力：

初めは、プレゼンの後、質問をされたくないと言った態度が、2年目以降、熱心に質問に答えていました。
- (4) リーダーシップ能力：

最上級生は模範的な役割を果たしてきました。今では、後輩も育ち、更にレベルも上がり、最近では、プレゼン後のディスカッションに多くの時間が割かれる様になりました。積極的に、対立する意見とのディスカッションを楽しむ風です。中学生レベルを越え、大学生でもできるだろうと思われる位堂々として、りっぱになっています。
- (5) 生徒の将来と期待：

生徒の一部は将来、米国の大学へ留学を目指していると聞いています。特に、米国は語学だけでなく、クリティカルシンキングを重視していますので、学院で受けた教育は大いに役立つことと期待します。また、社会に出て、問題を自分で処理でき、解決困難な問題へもチャレンジし、グローバル社会で活躍してくれるであろうと期待しています。

以上

プレゼンテーションの実例紹介

- プレゼンテーション授業の目的：本講座は帰国子女を対象に、“英語力保持と向上”と“考える力”の向上を図ることを目的としています。これを実現する為には、単に、情報伝達の授業でなく、得られた情報を整理し、まとめ、発表すること(プレゼンテーション)が重要となります。
- プレゼンテーション授業の進め方：中間時(学期の中間)：自分の興味あるテーマを自分で選び、自作自演する。最終時(学期の最後)：講師が与えたテーマを自分で調べ、まとめ発表する。(これは生徒の興味を広げるためです)

学年	年月	トピックス	概要
中学1年(12才) 第1期 春季講座	2001年7月	Creative Writing 継続して毎週物語的な文章を書く(この時はプレゼンができなかった。)	自分でキャラクターを創造し、物語を書く。毎週ストーリーを書き足していくものである。内容は、女神や妖怪が登場するファンタジックな冒険譚。主人公の名はJoe。女神の命令により南極に行く途中、ある老人と出会う。老人はJoeに自分の冒険話を語る、というもの。
中学1年(13才) 第1期 冬季講座(13才)	2002年2月9日	“Chernobyl”	チェルノブイリ原発のバックグラウンド 事故の状況と原因 事故の被害 事故後の状況と停止まで。
	2002年3月23日	“Blue Whales”	シロナガスクジラとはなにか シロナガスクジラの特徴：大きさ、色、形状 何を、どのくらい食べるのか ●季節によってどこに餌を求めて移動するのか 赤ちゃん鯨 シロナガスクジラの行動 ●グループ・単独 ●グループの大きさ 数の減少 泳ぐスピード
中学2年(13才) 春季講座(13才)	2002年6月	“Mt. Saint Helens”	セント・ヘレンズ山の概略 噴火の歴史について ●被害の様子、大きさ 現在の様子
	2002年7月20日	“Steam Engine”	蒸気エンジンとは何か ●ピストンのつくりなど 改良の過程 ●産業革命の影響など 蒸気エンジンの効用
中学2年(14才) 第2期 秋季講座(14才)	2002年11月2日	“War of 1812”	戦争の背景 ●原因など 戦争の過程 ●フントンでの会議など 戦争の影響
	2002年12月14日	“Locomotive”	水(水蒸気)のエネルギー利用 ●初期の蒸気機関車 ●水力発電の原理、送電まで
中学2年(14才) 第2期 冬季講座	2002年	“Why Can't Airplanes fly in space”	ロケットと飛行機の推進システム ●飛行機の構造説明 ●ロケットの推進方法 飛行機が宇宙を飛べない理由 ●具体的な困難な点
中学3年(14才) 第3期 春季講座	2003年5月31日	“Global Warming”	地球温暖化を目新しい視点から捉える ●南極の水が溶けることで起こりうる問題 ●現状では、南極がとけるのに何年かかるか ●海の水が増えたらどうなるか ●どんな建物が浸水してしまうか
	2003年7月12日	“GPS”	GPSとは何か ●仕組み、衛星と受信機の働きなど ●現在の特定法、距離の計算の仕方 GPSの問題点 ●電波が高層ビルに反射する事で生じる誤差 ●データが古くなってしまふ事
中学3年(14才) 第3期 秋季講座(15才)	2003年10月25日	“Magnet Trains”	モノレールの概要 ●スピードなどの特徴 構造説明 ●3つの構成要素の説明 現在の各国の研究状況 ●日本、ドイツ、イギリスなど
	2003年12月6日	“Peoples Image of Space at the Time When Columbus Found merica”	コロンブスの時代の宇宙に対する概念 ●天動説と迷信に基づく認識の例 コペルニクスについて ●地動説、自転などの発見と教会との対立 ガリレオについて ●地動説証明の経緯と教会の弾圧

生徒データ
生徒名： Y.M.(男子)
海外滞在期間： 7才~12才春まで、5年間アメリカ在住
本講座受講履歴： 中学1年春~中学3年秋まで



タイトル：Chernobyl

内容紹介
このトピックを選んだ理由
チェルノブイリ原発のバックグラウンド：
●いつ原発が稼働し始めたか ●どのくらいの電力を供給できるのか
事故： ●いつ、どの様にして起こったか ●事故の原因はなにか
事故の被害： ●放射能の汚染被害 ●何人の人々が避難したか
事故後： ●更なる事故 ●原発の完全停止

評価
声の大きさ、話すスピード、内容は良かったが原稿の整理や、話す順序を改善すれば、さらに良いプレゼンテーションを行えるでしょう。

タイトル：“Why Can't Airplanes Fly in Space?”

内容紹介
ロケットと飛行機の推進システム
●飛行機の構造説明およびジェットエンジン構造の説明
●ロケットの推進方法：両者の違いを説明
飛行機が宇宙を飛べない理由
●具体的な困難な点およびロケットが飛べる理由を説明

評価
きちんと要点がまとまっていた。難しい事も、自分の言葉で理解しながら上手に発表した。プレゼンの始め方も良く、話すペース、声の大きさ等、基本的だが難しいとされている事柄が全て出来ていて非常に完成度が高かった。

千葉 紘一
ちば こういち
ABCD学院 学院長

ABCD 学院
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-12
TEL:03-5365-1341 FAX:03-5365-1340
http://www.abcdce.co.jp/

編集長から一言
前回に続き、「英語補習校」のABCD学院での指導の具体例の紹介です。
ここで紹介されているYM君は、5年間のアメリカ生活の後、帰国子女受け入れ校に入学しました。しかし、アメリカの大学に進学するためには、学校での学習だけでは不十分だと判断し、ABCD学院でより高いレベルのアカデミック・スキルの英語でのトレーニングを続けました。